新　刊

□伊藤　洋（編）：**1998年版埼玉県植物誌** 833 pp. 埼玉県教育委員会. ¥3,200＋800（送料）.

埼玉県の学校の先生方が中心となり，10年をかけて調査収集した新たな資料に基づいて編纂された．1962年の埼玉県植物誌以来のものである．標本は埼玉県立自然史博物館で閲覧できる．主体は485頁におよぶ植物リストで，約2000種類の維管束植物が短い説明と共に記録され，それらの分布図が200頁にもわたって示されている．コケ類（採集者略号，標本番号，市町村名を伴う），藻類（簡単な説明，産地，文献番号を伴う），地衣類（植物名のみ），菌類（植物名のみ）についても，類書に抜きんでた丹念さで，過去の記録も含めてまとめられている．秩父地方の植物方言，植物学用語集（解説つき）がついている．全体として神奈川県植物誌に似ていて，それから検索表や植物図を省いたものという感じである．神奈川県のときには気づく間がなかったのだが，時をへて生じてきた注文をこれを機会に記しておく，分布図は市町村界を描いた白図に一地区一点で表示されている．地元の方にはその点がどの地区を示すものかおわかりなのだろうが，余所者には見当がつかないのである．まっ白な地図に点を打った分布図よりも，この方が情報が多いのだから，せめて網目模様と地区名の対照表を，分布図の先頭にでも付けてほしい．県分布図は自県の境界しか描かないものが多いが，たとえば東京都と山梨県の境界が少しでも引き出してあると，それだけでも余所者にとって地理的な理解度は飛躍的に増大する．つまりどの辺が平地でどこらが山地かが，そういう無用な線があるだけでかなり見当がつくのである．藻類のリストにあるような，本文にごく簡単でも資料の記述があれば，標本や文献の検索に有用だろう．1962年の植物誌と比較して，今回見いだせなかった植物215種類もリストされているが，変遷の記録として後日意味を持つ可能性がある．ボリュームのわりに安価であるが，1998年9月15日締切りの予約限定頒布なので，この紹介文では間に合わないかも知れない．照会は郵便またはFAXで下記へ．〒369-1305　埼玉県秩父郡長瀞町1417-1　埼玉県立自然史博物館内さいたま植物資料普及会 Fax0494-69-1002.　（金井弘夫）

□埼玉県環境生活部自然保護課（編）：**さいたまレッドデータブック**　411 pp. 1998. 同課.

埼玉県植物誌の編纂と平行して行われた絶滅危惧種の調査と評価の結果で，維管束植物ばかりでなくコケ，藻，地衣，菌類も含む845種類がリストされている．リストの項目は和名，学名，県内の分布（郡単位），形態の特徴，県外の分布，生育地，生活型，減少の要因，備考のほか，危険度の全国カテゴリーと埼玉カテゴリーが対比されている．危険度の評価が国レベルと地域レベルで異なるのは当然で，国のRDB公表を追って各地で地域別のレッドデータプランツの再評価がなされ，本書もその一つである．バイカモは絶滅と判定されている．ドクウツギもごく近い将来絶滅の危険性が極めて高いとされており，その要因は河川開発や道路工事であるという．減少の要因の中には人為的なもののほか，自然遷移という条件が挙げられているものがかなり多い．巻末に約1300件を含む埼玉県植物関係文献目録がある．入手については下記へ照会されたい．浦和市高砂町3-15-1　埼玉県環境生活部自然保護課（電話048-824-2111）.

（金井弘夫）

□小林禧樹，黒崎史平，三宅慎也：**六甲山地の植物誌**　301pp. 神戸市公園緑化協会. ¥5,300.

六甲山の植物は古くから調べられ，これまでにいくつもの植物誌が作られている．おそらくわが国では最もよく調べられた地域の一つだろう．一方，阪神地域に近いことから，中世以来石材の採掘や薪炭材の乱伐に加えて，近年では行楽，リゾートの対象として開発され，それらに呼応する災害とその復旧でも繰り返し話題になった．本書は最近のレッドデータブック作成の関係で，あらためて詳細な調査を行い，標本に基づいて作られたもの